

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年2月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第1週以降急増し、第6週の報告数は21,068件と最多です。
- 梅毒の報告が6件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O血清群不明1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者2件)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件、血清群不明1件の報告がありました。いずれも創傷感染による感染が推定されています。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。男性1件女性1件で、うち1件は同性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 50歳代1件、60歳代1件(いずれもワクチン接種歴無)の報告がありました。
- 9 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例1件(ワクチン接種歴無)の報告がありました。
- 10 梅毒: 6件の報告がありました。早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症状病原体保有者3件で、男性4件女性2件で、そのうち5件は異性間性的接触による感染が推定されています。
- 11 播種性クリプトコックス症: 90歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。

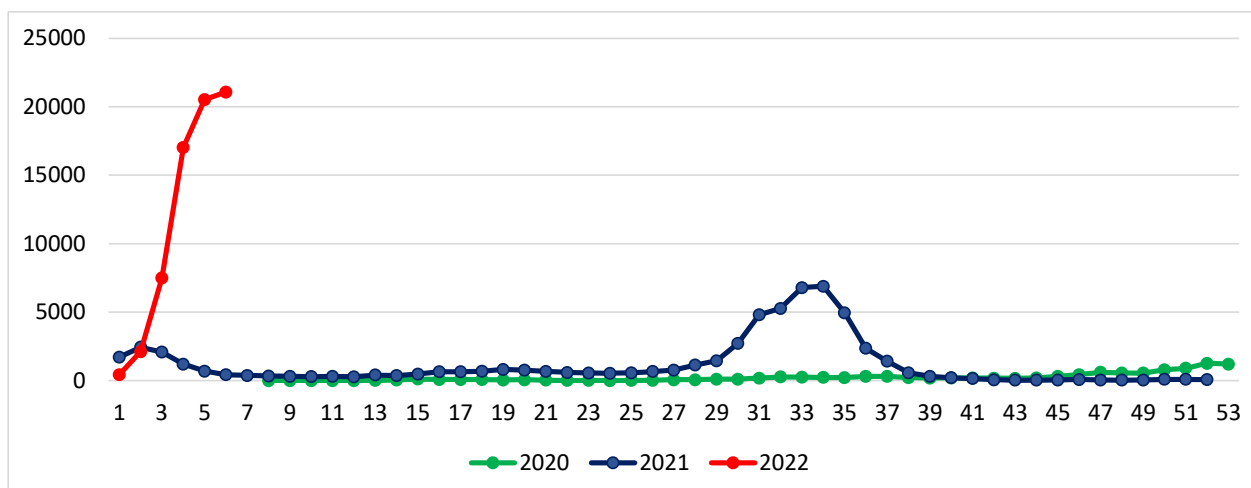
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第4週～第6週に横浜市から報道発表のありました症例は58,597件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

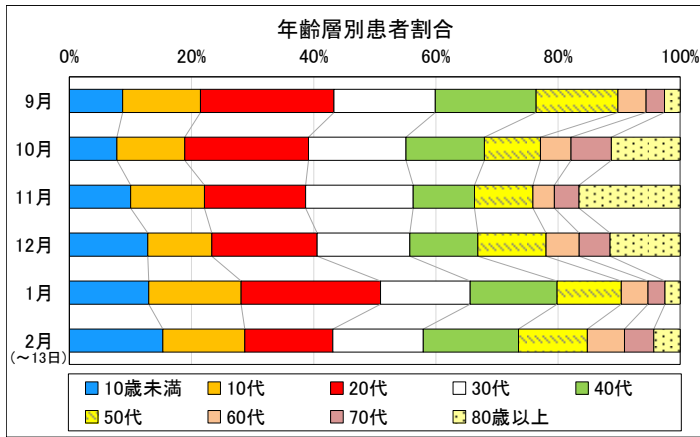
1 報告数の推移

[人]

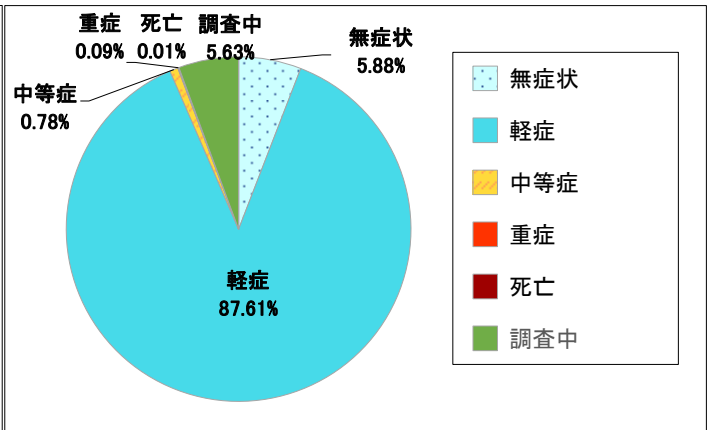


[週]

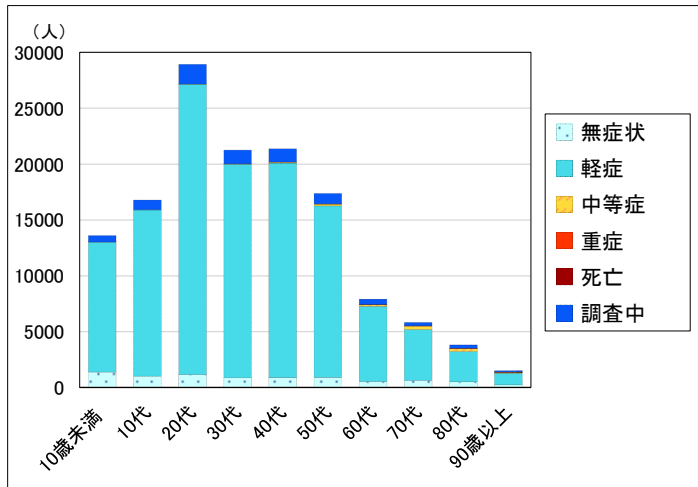
2 年齢別割合



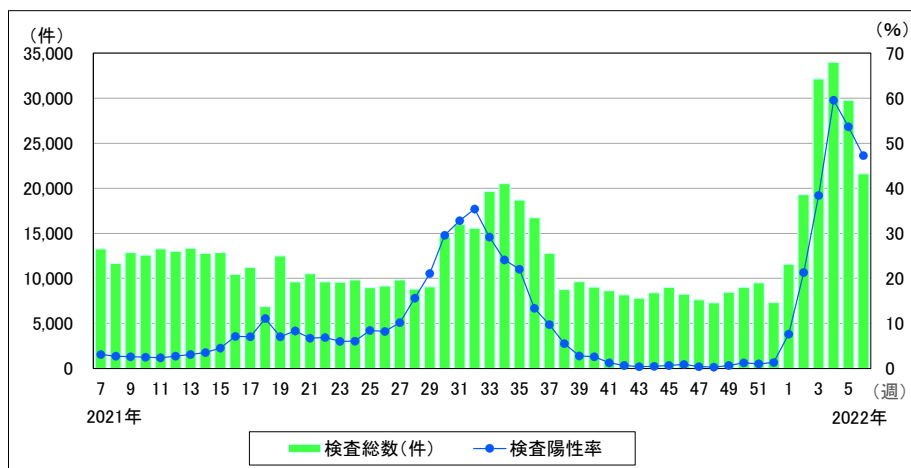
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第6週まで)



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022年第6週まで)

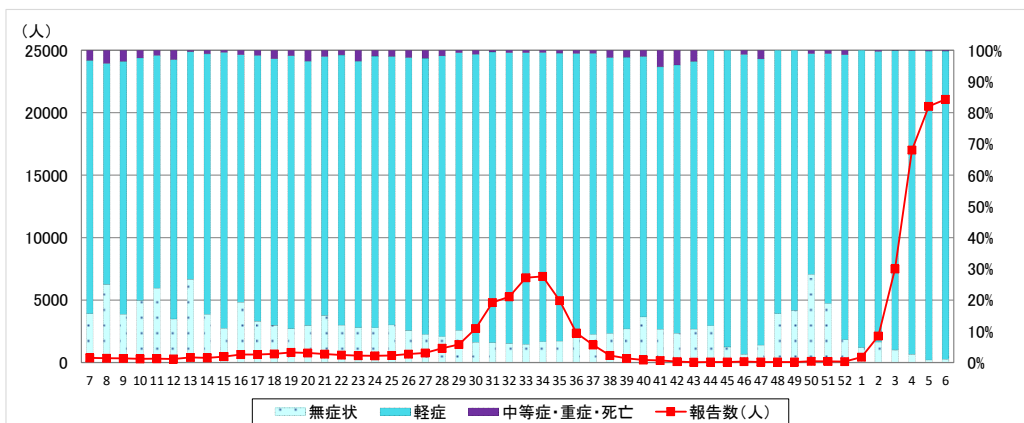


5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021年第7週~2022年第6週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

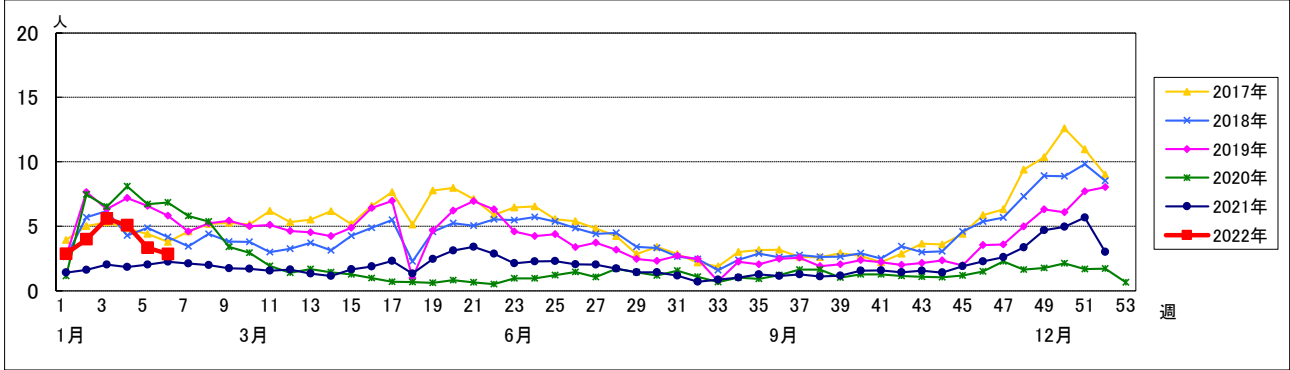
6 報告数と届出時点の重症度(2021年第7週~2022年第6週)



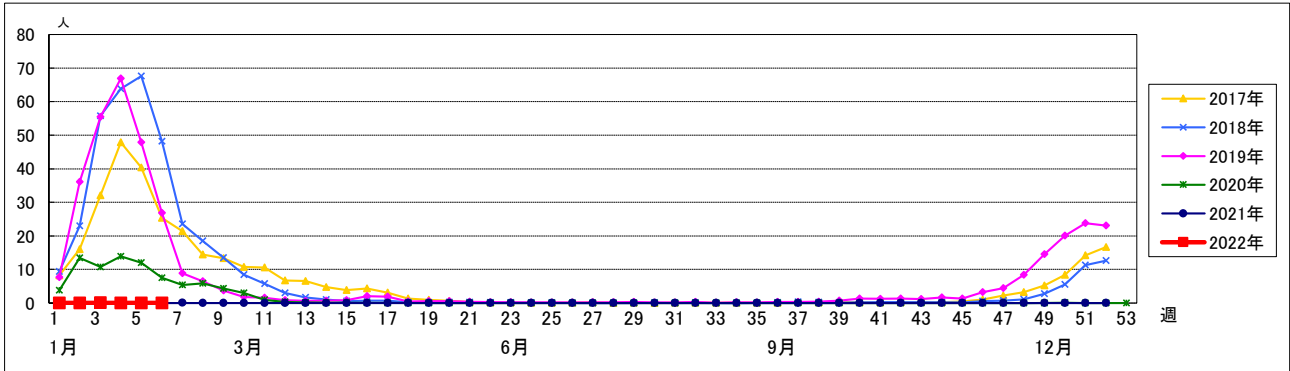
報告週対応表	
第4週	1月24日～1月30日
第5週	1月31日～2月6日
第6週	2月7日～2月13日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していますが、第4週5.07、第5週3.33、第6週2.84となっています。



2 インフルエンザ: 例年より低めの報告数で推移していて、第4週0.02、第5週0.02、第6週0.00となっています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:2件	女性:0件	淋菌感染症	男性:22件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月期(2022年第4週～第7週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点25件、内科定点1件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

アデノウイルス1型分離3株が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第4週～第7週)

主な臨床症状	上気道炎
分離・検出ウイルス	
アデノウイルス 1型	3
合計	3
	-

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2022年第4週～第7週)の「菌株同定」検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、B群溶血性レンサ球菌1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、レジオネラ属菌1件でした。非定点からは、セレウス菌2件でした。保健所からは、腸管出血性大腸菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件でした。

「分離同定」検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から溶血性レンサ球菌2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第4週～第7週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		B群溶血性レンサ球菌	1 B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1 <i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1陽性、PVL陽性 (1)	
		レジオネラ属菌	1 <i>Legionella pneumophila</i> 1群 (1)	
保健所	非定点	セレウス菌	2 <i>Bacillus cereus</i> セレウリド陰性、エンテロトキシン陽性 (2)	
		腸管出血性大腸菌	3 Og156 : Hg25 VT1 (2)、O26 : H11 VT1 (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	2 B群溶血性レンサ球菌 I a型 (1)、G群溶血性レンサ球菌 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> 1群 (1)
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌	2	溶血性レンサ球菌不検出 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】